

小学校第4学年 道徳科学習指導案

日 時 令和元年10月17日(木) 2校時
 指導者 教育センター所員 平川 敏誠

1 主題名 未来に残したいもの 【C-(16)伝統と文化の尊重】

2 教材名 ふろしき (出典「東京書籍」4年)

3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

我が国には、我々日本人が誇るべき伝統や文化というものが数多く存在する。長い間受け継がれ、外国の人々の心を惹き付ける魅力あふれるものも多い。しかし、我々には生活の便利さと引き換えに、そのよさや魅力を手放してきた一面もある。安さや手軽さを重宝すれば、一つのを長く使い続けたり自分たちの生活の在り方を工夫したりする考えにはつながらない。逆に、日本の伝統文化を尊重することは、ものを大事に使い自然と共生できるような生き方を探ることにもつながる。日本の伝統や文化を尊重することとは、そこによさを発見することである。手軽さや便利さといった面に偏りがちな価値観を捉え直す機会となるようにしたい。

○児童の実態について

本学級(26名)では、アンケートの「日本のふるさとのよいところが分かり、それを大切にしようとしているか」という問いに、ほぼ全ての児童が「できている」と回答している。実際に故郷への愛着や地域の人々を大切に思う姿を感じることも多い。しかし、便利で様々な道具が簡単に手に入る生活に浸っていることは否めず、昔ながらの道具のよさに気付いたり、生活を工夫することをよさとして捉えたりする経験は少ない。さらに、そのようなことについて友達と語り合うという経験はほぼないものと言える。日本の伝統について考え、そのよさについて考えを深めることは大変有意義だと考える。

○教材について

本教材では、ふろしきを題材として取り上げている。ふろしきは、ひと昔前までは日常的に使われていて、珍しいものではなかった。しかし、最近ではあまり見かけず、失われていく日本の伝統文化の一つと言える。主人公の「わたし」は、きれいな布を見つけ、それがふろしきであると知り、母から話を聞いたり品物の包み方を教わったりして、そのよさを知る。母の実演会に思わず声を上げるゆう子の様子や、ふろしきの多様なよさの記述から、ふろしきになじみがない児童の立場でも、そのよさを見つけられるようになっている。また、本文の最後には「ふろしきのほかに、日本の古いもののよさを知って、使っていけたらいいなと思いました」と書かれており、ふろしきだけにとどまらない、日本の伝統文化全体へ関心を広げることができる教材である。

○指導の重点

本授業では、教科書にある「ふろしき」のよさを実感させ、児童に「日本らしさを感じるもの」に親しみをもって接していきたいという意欲を養うことをねらいとして取り組む。
 ねらいの達成のために、主に三つのことを手立てとして行う。まず一つ目に、前時の授業で、「一枚絵」を使った授業を行い、「日本らしさ」や「日本の伝統文化」についてイメージを持たせることである。そうすることで、「日本らしさ」というキーワードで日本の伝統文化全体に考えを広げやすくなるものとする。二つ目に、導入で、日本らしさが失われつつあることに気付かせた上で、それが失われて困ることは何かという疑問を児童に持たせることである。教材ではふろしきだけに焦点化しているが、日本の伝統文化全体について考えるのだという意識を持たせることを意図したい。三つ目に、実際にふろしきで包んだものを持ったり、手渡したりする体験を取り入れることである。そのような体験をすることで、教科書に書かれていることを実感として捉えることができると考える。以上のような手立てを基に、ねらいの達成を図りたい。

4 本時のねらい

ふろしきのよさを知ったり、実感したりした上で、主人公の思いを想像することで、ふろしきだけでなく日本の伝統や文化全体に親しみをもって接していきたいという意欲を養う。

